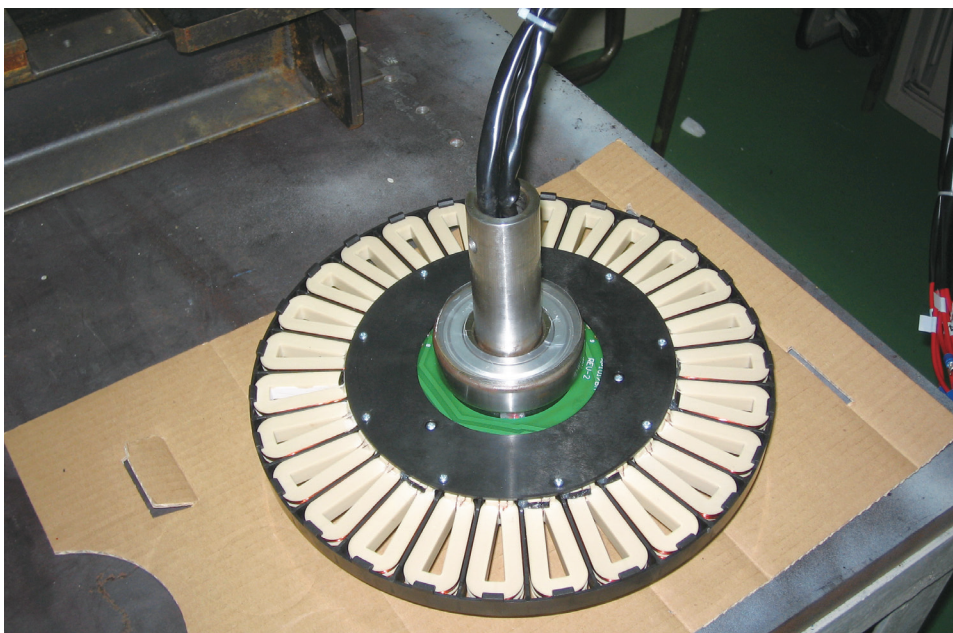


オーハツ株式会社

非常用、防災用発電機から
自然エネルギーにも

納期
相談
コスト
相談
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット



コアレス発電機

業務
内容

活発な市場で存在感

非常用、防災用発電機に特化する企業。100kw以下の小型機を得意とし、ヤンマー向けのOEM供給をメインに手がける。昨今は東日本大震災後の原発事故を受け、バックアップ用途で発電機の需要が急増。国内の防災用発電機市場は過去4000、6000台の安定市場だったが、昨年は8200台に伸びた。この傾向は今年も続いており、同社でも前年より800台程度、生産が増える見通し。平成25年12月に創業70周年を迎えた。

強み

独自の生産ラインで
勝負

発電機と制御盤はすべて自社設計。同業他社が持たない設備を備えてコア技術を囲い込み、競争力を高めている。コストダウンと生産効率化に力を入れ、設備投資も毎年減価償却の範囲内で行っている。また発電機業界内でも早くにライン生産を始めた。昭和48年当時、輸出が急増。モノを据え置いて組み立てる生産体制では台数が捌けなかったためだ。昭和50年代後半には大手取引先を通じ、トヨタ自動車株式会社に学ぶ機会を得て「カンバン方式」を導入した。今はこれに独自の解釈を加え、メインラインを軸に部品や半製品の供給、出荷検査と準備を行う「Z型生産ライン」を運用。仕掛品を削減し、「まとまった受注でも、複数の仕様で部品の組合せがそれぞれ異なる」という多品種少量生産の中でコストダウンと納期短縮を実現している。

分野
進出自然エネルギーに
新たな道

昨今注目を集める自然エネルギー分野でも独自製品の展開を狙う。自社技術が生かせる風力や水力発電の分野だ。ノウハウを注ぎ込んで完成させた発電機はトルクが少なく、小さい力で回転し、風速1mでも発電できる。こうした新たな仕組みで、従来より制御も容易になった。現在は安価な羽の調達に苦心しており、装置の供給にとどまっているが、今後、パートナーを得てシステム販売も手がけていきたいという。一方で技術面において「強電に強いが、弱電に弱い」という課題解決に向け、他社や大学との連携などを通じて人材育成にも力を注いでいく。

海外
展開

海外調達で競争力強化

震災後の特需は2、3年先には収束し、再び4000〜6000台の安定市場へと戻り、価格も落ち着いてくると予想する。同社はコストダウンの取り組みを加速するため鋳物や板金など構成部材の10%程度を中国から調達している。量が少ないため簡単ではないが、海外調達比率を伸ばしていく考え。さらに自然エネルギー分野で海外展開も視野に入れる。



本社

COMPANY PROFILE

オーハツ株式会社

大阪25

ISO 9001

当社の
歴史

創業は昭和14年。船の錨用モーターから出発し、昭和38年に建設工事用発電機を手がけ始めた。今後、非常用発電機に特化する中から、新たに自販できる製品を考えていきたい。世の中から電気はなくなる。発電機は何かと組み合わせで存在するものだ。この「何か」はさまざま変わる。回転系の技術で対応できるものに取り組んでいきたい。

夢は1家に1台の発電機。
電気の地産地消を実現したい。

代表取締役社長 芝谷 康二さん



■主な事業内容

防災用発電装置、非常用発電装置、設備用発電装置、可搬型エンジン発電機、発電機盤・配電盤、自動制御盤の設計・製造・販売

■主な取引先（納入先）

発電設備販売店、銀行

住所／〒584-0036
富田林市甲田
3-5-11

TEL／0721-24-2688

FAX／0721-25-5128

創業／昭和18年12月

設立／昭和18年12月

資本金／6,000万円

従業員／80名

<http://www.ohatsu.co.jp>